〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax.0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

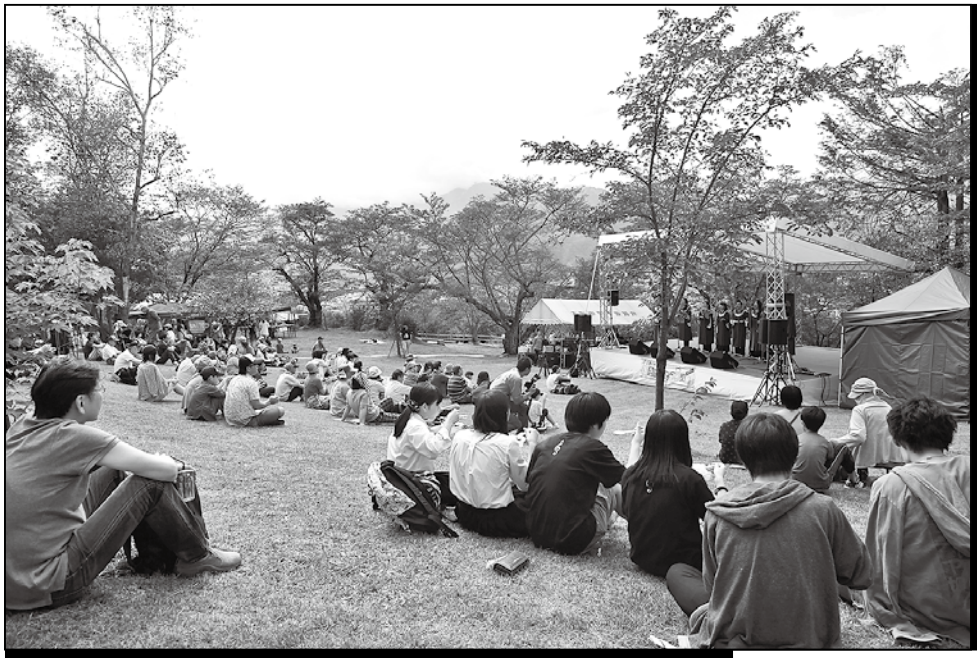
「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

11月号
第 59 巻 第 10 号
2014年

無料
Free

もくじ

今月の１枚……１ページ
・「信濃大町山岳フェスティバル 2104」が開催されました
さんぱく研究最前線 ―北アルプスの自然と人 トピックス―……２ページ
・生業神・北安曇地方の「山の神」信仰
展示・イベントのご案内……３・４ページ
・企画展「日本山岳画協会大町展」のみどころ（4）
・常設展スポットガイド
博物館のひろば……４ページ
・美麻小学校４学年総合的な学習の時間
・須坂市立仁礼小学校４学年社会科見学
・山岳風景画に関する現地調査
・大町西小学校４年２組親子レクリエーション



北アルプスを背景にした特設ステージでの野外ライブ

「信濃大町 山岳フェスティバル 2104」が開催されました

関　悟志

平成26年9月13日（土）、大町公園・山岳博物館・長野県山岳総合センターを会場として、「信濃大町 山岳フェスティバル ２０１４」（主催：同実行委員会）の初日が開催され、約1,200人の参加者がありました。

今年はじめて開催された「信濃大町 山岳フェスティバル」は、長野県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくとする「信州山の日」制定の趣旨にもとづき、全３日間の日程で行われました。開催に際し、山岳博物館では実行委員会及び幹事会の構成員となり、イベントの準備・運営に協力しました。

メイン会場となった大町公園の芝生上には、北アルプスの山並みをバックにした特設ステージが設置され、野外ライブが行われました。ジャズやゴスペルなどのさまざまなパフォーマンスが繰り広げられ、秋空のもと、さわやかなサウンドが響きわたりました。また、ステージでは、長野県内のテレビやラジオで活躍するゲストを招いてのトークショーが行われ、山岳博物館の学芸員も出演しました。このほか、公園内に各種飲食ブースが出店し、ミネラルウォーターや山の恵み「ジビエふるまい汁」、「黒部ダムカレー」など、地元の食を楽しむこともできました。

この日、山岳博物館では施設を無料開放し、館内と付属施設で各種イベントを実施しました。普段の来館者層とは異なる幅広い方々にも新たにお出でいただけたものと思います。今回の催しを通じて、博物館の展示や活動を広く知っていただく良い機会となりました。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

さんぱく研究最前線 －北アルプスの自然と人　トピックス－

生業神・北安曇地方の「山の神」信仰

清水　隆寿

「山の神」とは

山を支配し、あるいは山を守る神の総称として、日本全国に広く「山の神」は信仰されています。とりわけ山々に囲まれた長野県ではなじみ深い神様で、普通は「山の神」とだけ呼称され、祀られる土地の地名を冠して「何々山の神」とも言われています。

山は、植物や動物、鉱物を採集・確保し、飲み水や水稲耕作のための水源として、人々に多くの恩恵をもたらしています。一方で洪水や土砂崩れ、風雪、ときには火山噴火により人々の生活に災害をもたらすといった側面もあります。「山の神」はこうした恩恵と畏怖の観念を併せ持った存在として、神として崇められてきたことが想像されます。実際、山仕事に従事する人々が山で災厄に遭ったり、怪我をしないように、また悪い獣に害されないように守ってくれる神様として信仰されています。

社殿の立地は、それぞれの関わりの深い山の入口に祀られることが多く、山への出入りの際に安全無事の祈願がなされます。木製や石製で出きた小祠に、簡素な鳥居を建てて祀られているものや大木などを依代とするものが見られます。ときにこの祠は「ホウデン」と呼ばれています。

大町市平「大出山の神」

「山の神」を祀る人々

山の神は、山を生業の場とする狩猟民や林業、鉱業に関わる人々にとどまらず、農耕のため山から水を利用したり、炭焼き、薪や緑肥を山から採取してきた農民の間にも信仰されてきました。山と深い関わりをもって生活していた人々が信仰していたことが伺えます。

山を生業とする杣（そま）や猟師の人々は、山での生活を守り、動植物の繁殖を司る神として、常に山の中に存在していると考えている一方、平地に暮らす農民は田の神と結びつける傾向があります。農民が祀る山の神は、春に山から里に下り田の神となり稲の生育を見守り、秋の収穫が終わるとともに再び山に戻り山の神になると考え、山の神を農神や祖霊として捉えており、北安曇地方でもこうした伝承が遺されています。両者に共通するのは、本来はアニミズム的に発生したものが、後に神道にとりこまれ、神話の大山祇神（おおやまつみのかみ）をあてて祭祀されているものが多くみられます。

山の神の祭り

山の神の祭日は、松本から北安曇地方にかけては、月の 17 日に行われることが多いのですが、近年では年頭の初山入りの日や、あるいは春や秋の山の日にのみ、お祭りが行われるところが多くなりました。大町市常盤地区では 11 月 17 日が、山の神が山に戻る日とされています。

北安曇地方での山の神の祭りの呼び名は、神の名そのままに「山の神」「山の神様の祭り」と呼びますが、小谷や白馬地域では「ヤマノコー」（山の講）と呼ばれている所もあります。

またお祭りは、山仕事を生業とする人々を中心に祀られ、ときに講を組織したり、村全体で祀るところ、各戸で祀られることもあります。北安曇地方では、旧村社格のお宮で祀られることは稀ですが、大町市常盤清水の三嶋社（祭神は大山祇大神。現在は神明社と合祀される）、池田町堀ノ内の三島神社など 4 社が知られています。また新潟県を中心に豊穣多産が「山の神」と結びついて名前の由来となった山の神を「十二山の神」とか「十二様」といわれ祀るところがありますが、白馬村にも「白馬村十二神社」があり、地区によって祀られています。

例祭にあたって、粢（しとぎ＝うるち米を搗いて作る餅）やお神酒、魚や野菜などが供えられるとともに、鉄板で作った鉾や剣を奉納することが多くみられます。

また山の神の祭り日は、山の神が狩りをする日だとか木の種を蒔く日、木を数える日などと言われ、山に入ると災いがあるといった禁忌伝承が全国に残されています。この日は、山へ行ったり、山の木を切ったりしてはならないとされ、山仕事を休む厄日としています。

山の神に奉納された二振りの剣

山の神の伝承

一般に「山の神」は女性神として信仰されており、気むずかしく嫉妬深いと言われ、若い女性が山に入ると事故が起こったり、天気が崩れるといった言い伝えも全国で見られます。こうした伝承の背景には、危険な森や困難な山仕事の場に女性が立ち入ることを禁じた戒めがあったのかもしれません。また山の神は醜女であるとする伝承もあり、自分より醜いものがあれば喜ぶとして、顔が醜いオコゼを山の神に供える習慣も知られています。

また山の神の使いには、オオカミやクマが信仰の対象とされていました。大町市社地区では、明治時代以前、オーケン（オオカミ）に馬や人の安全を頼むため、山に赤飯を供えたとの伝承が残されています。

現在、大山祇神に関わる神社は国内各地に 10,299 社が祀られています。小祠を含めるとさらに増え、北安曇地方でも 200 以上に及ぶ小祠が確認できそうです。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

展示・イベントのご案内

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。11月は15日（土）と16日（日）です。

企画展「平成26年度 日本山岳画協会 大町展」のみどころ(4)

今回は、「日本山岳画協会 大町展」第Ⅱ部テーマ「北アルプスを中心とした山岳画」（会期:9月17日（水）～11月24日（月））において展示します作品について、作家自身により描かれた時のエピソードや作品の解説をご紹介いたします。

「残雪 前穂高より」

小林浩子（こばやしひろこ）　長野県生まれ、現在長野県在住。示現会会友。日本山岳会会員。

第Ⅱ部　（1）作品名「残雪　前穂高より」油彩画　F30

7月半ば、前穂高岳に登りました。上高地から岳沢、重太郎新道を通って、紀美子平、前穂とピストンをしました。

重太郎新道の登りはかなりきつかったけれど、頂上の景色を見たとたんその疲労は一瞬で吹き飛びました。ハイマツの緑、残雪の白、そして空の青、さらにアルプスの険しく複雑な岩様。ずっとそこに留まっていたい気分でした。

（2）作品名「徳本峠より　明神岳・前穂・奥穂」油彩画　F10

「大町市民の森から（Ⅰ）」

中村勝久（なかむらかつひさ）　広島県生まれ、現在長野県在住。日本美術会会員、新作家美術協会会員、日本山岳会会員。

第Ⅱ部　（1）作品名「大町市民の森から（Ⅰ）」油彩画　F 40

大町市民の森の桜は本当に美しくなりました。北アルプスを背景にしたしだれ桜が、雪山と引き立てあっています。これからこのポイントは、カメラや絵画などの絶好の題材になるでしょう。構図などはこれから様々な人が工夫するでしょうが、今回はとにかく夢中で取り組みました。

（2）作品名「大町市民の森から（Ⅱ）」油彩画　F 20

「聖山カイラス（チベット）」

増田欣子（ますだきんこ）　東京都生まれ、現在千葉県在住。朱葉会理事、現代童画会常任理事、日本山岳会会員。

※現在、病気療養中の為、作者自身による作品のご紹介はできませんが、第Ⅰ部に引き続き、深みのある荘厳な作品をご堪能ください。

第Ⅱ部　（1）作品名「聖山カイラス（チベット）」油彩画　F 50

（2）作品名「ラカボシとフンザの春」油彩画　M30

日本山岳画協会の歴史

日本山岳画協会は1936年（昭和11）に日本山岳会に所属する好んで山を描く画家12名によって結成された団体で、創立以来本年で78年目を迎えます。

当協会の作品の主題は、山頂・山中とか狭く限定せず、遠望も山麓もそして渓谷、湖沼・草木、禽獣等の山に属するものは固より、天象、人生、神話、伝説の類まで、国内外に広く題材を求めたものです。

創立会員には、中村清太郎、足立源一郎、石井鶴三、石川滋彦、丸山晩霞、吉田博などが名を連ねています。記録によれば結成から9年目の1944年（昭和19）まで、毎年東京と大阪で定期的に展覧会を開催していますが、途中1941年（昭和16）に戦争に突入、それに続く1945年（昭和20）の敗戦と占領下の社会情勢の混乱の中で、当会も活動できない数年を過ごし、1949年（昭和24）になって、創立会員の中の5名（上記の中、丸山を除く）と戦前に入会していた4名と新規加入の6名を加え計15名にて再発足しました。

爾来会場は主に東京で、時に神戸での開催が記録されていますが、1976年（昭和51）以降は東京のみの展覧会開催を続けており、会員数も20名内外で推移しています。そうした中1984年（昭和59）に初めて大町山岳博物館で特別展が開かれ、現在まで略々5年毎に開催しています。

創立から現在まで入退した会員の数は110余名で、その中には文化勲章受賞者や芸術院賞受賞者そして芸術院会員となった会員が10数名居り、順不同で氏名を列挙すれば次の通りです。

田崎広助、伊藤清永、石井鶴三、大久保作次郎、井手宣通、小堀進、高田誠、

田村一男、楢原健三、佐竹徳、藤本東一良、中村善策

当協会の現在の会員は24名で美術団体としては小規模ですが、今後とも、山岳を真に尊崇する画家の集団として、山岳芸術の発展振興に及ばずながら寄与すべく、内外の山々をテーマとした作品の制作・発表を主眼に活動を続けていきます。

展示・イベントのご案内

常設展スポットガイド イベントのご案内

新しい展示となった常設展について、各展示コーナーの具体的な展示資料など、展示のみどころを学芸員や専門員が来館者に解説します。なお、解説する展示コーナーは「山と人」です。詳細についてはお問い合わせください。

主催	市立大町山岳博物館
期日	平成26年 11月1日(土)・2日(日)・3日(月・祝)
時間	各日とも 1回目 … 午前10時30分～ 2回目 … 午後2時30分～ ※各回の所要時間は20分程度で、午前・午後とも内容は同じです
会場	市立大町山岳博物館 展示室ほか
対象・定員	どなたでも(年齢制限なし) 定員なし
費用	入館に際して通常の観覧料が必要です
申し込み	不要(当日、直接お越しください)

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の65歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)

美麻小学校4学年総合的な学習の時間「緑の少年団プロジェクト・学校周辺の林の植物観察」

平成26年9月10日(水)実施

大町市立美麻小中学校には、隣接して針葉樹林(カラマツ林・スギ林)と広葉樹林(コナラ・ミズナラ・ホオノキなどからなる二次林)があり、児童たちの遊び場として活用されています。林につくられた探検コースには、上り下りに使うロープやターザンロープが設置されていて、郷土の自然の中で児童が遊べる環境にあります。

美麻小中学校4学年は、総合的な学習の時間のなかで、これまでに鳥の観察やキノコのコマ打ち体験などを通して自分たちの遊んでいる林について、より深く知ろうと学習を行っています。

山岳博物館では、この度、植物の名前の由来や植物の観察方法、林と人とのかかわりについて学んでいただくためのお手伝いをさせていただきました。

当日は、人は縄文時代から林と付き合ってきたことを知っていただいた上で、実際に林へ出かけて、花を虫眼鏡で観察して特徴を捉え、自由な発想で植物に名前をつけたり、ジェスチャーで植物名を当てるクイズや匂いをかいで植物名の由来を知るクイズを行ったりしました。

後日、児童からは「クイズが楽しかった」などの感想のほかに「草花のことが今までより詳しくなり、もっと隅々まで探してみたくなった」、「植物の名前をいっぱい覚えていきたい」という学習に対して意欲的な感想が寄せられました。

須坂市立仁礼小学校4学年社会科見学

平成26年9月25日(木)実施

須坂市立仁礼小学校4学年(2クラス45名)が、「長野県の自然と観光」をテーマとした社会科見学で山岳博物館を訪れました。

館内では、学芸員の案内説明のもと、3階の地図を活用して飛騨山脈の学習を行ったり、2階のはく製や標本などを通して北アルプス周辺の豊かな自然環境について学んだりしました。さらに、1階では展示された民具などの展示資料を通じ、3学年時の社会科で学んだ「昔の道具」について、復習を行いました。

今回のように、市外や県外の学校からも、さまざまな学習の機会に博物館を訪れていただく場面が増えていけばと思います。

山岳風景画に関する現地調査

平成26年7月22日(火)～24日(木)、9月30(火)～10月2日(木)実施

山岳博物館では、平成27年度に「山岳風景画の世界 ―山博収蔵コレクション―(仮題)」と題した企画展を開催予定です。当館を含めた大町市所蔵の美術資料のうち、山岳風景画(山岳画)という分野でのコレクション化を一層図り、ひとつの資料群として資料価値を高めたいと考えています。

企画展の実施に向け、作品に描かれた山岳画に関する現地調査を今年実施しました。夏に室堂から剱・立山連峰方面、秋に上高地から穂高連峰方面へ出向き、作画モチーフとなった山岳風景の現地確認・撮影記録を行いました。今回の調査では、作品解説のための参考情報を得ることができました。

大町西小学校 4年2組親子レクリエーション

平成26年10月4日(土)実施

大町市立大町西小学校4年2組の親子24組のみなさんによる「親子レクリエーション」が当館で実施されました。学芸員の案内説明で館内の常設展示を見学し、付属園で「どうぶつスタンプラリー」を体験。その後、館内で展示資料をもとにした「さんぱくクイズラリー」を体験していただきました。保護者のみなさんは今春のリニューアル後に初めて来館された方がほとんどで、なかには子どもの頃以来、しばらくぶりに訪れたという方もいました。

当館では、こうしたPTA主催の学級単位、あるいは地区単位での見学や体験学習にも対応いたしますので、ぜひご活用ください。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
〒398-0002 長野県大町市大町8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 宮野典夫
TEL. 0261-22-0211 Fax.0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

11月号
第59巻第10号

発行日 2014年10月25日
印刷 株式会社 奥村印刷所
〒398-0002 長野県大町市大町2470
TEL.0261-22-0205 FAX.0261-22-1345